

以下の数値目標を設定し、取り組みの達成状況の評価検証を行うことで、施策の拡大や改善など、計画の効率的な取組に繋げる。

数値目標	基準値	実績値 (参考値)	目標値	目標設定の考え方
公共交通にアクセスしやすい区域の人口カバー率の維持				
数値目標 1 公共交通にアクセスしやすい区域の人口カバー率 ※アクセス可能地域内人口／熊本市域人口	83.9% 〈H27年度〉	85.6% 〈R2年度〉	85.6% 〈R7年度〉	人口減少が見込まれる中においても、現状の水準を維持する
公共交通利用者数の増加				
数値目標 2 公共交通機関の年間利用者数 ※各公共交通機関の輸送実績（利用者数）の合計値 ※目標値には、新たなコミュニティ交通を含む	55,436千人 〈H27年度〉 (H26年度実績)	53,216千人 〈R2年度〉 (R1年度実績)	56,000千人 〈R7年度〉 (R6年度実績)	新たな公共交通施策等を積極的に展開し、公共交通の利用促進を図り、利用者数の増加を目指す
公共交通機関を利用する市民の割合の増加				
数値目標 3 目的地に行くときに公共交通機関を利用する市民の割合 ※毎年度実施する市民アンケートの調査の結果。週に1回以上利用、または月に1回以上利用と回答した人の割合	47.5% 〈H27年度〉	(39.7%) 〈R2年度〉 ※現時点ではR1年度実績	50.0% 〈R7年度〉	少なくとも市民の2人に1人が目的地に行くときに公共交通機関を利用することを目指す
公共交通の収支率の向上				
数値目標 4-1 公的資金が投入されている公共交通の収支率（バス） ※バス事業者（5社）の収入額／支出額	—	63.9% 〈R2年度〉 (R1年度実績)	63.9% 以上 〈R7年度〉 (R6年度実績)	新たな公共交通施策等を積極的に展開し、公共交通の最適化・効率化を図り、収支率の向上を目指す
数値目標 4-2 公的資金が投入されている公共交通の収支率（鉄軌道） ※鉄軌道（電鉄・市電）の収入額／支出額	—	93.8% 〈R2年度〉 (R1年度実績)	93.8% 以上 〈R7年度〉 (R6年度実績)	
利用者1人当たりの公的資金投入額の縮減				
数値目標 5 利用者1人当たりの公共交通への公的資金投入額 ※バス（5社）、鉄軌道（電鉄・市電）、コミュニティ交通の公的資金投入額／年間利用者数 ※公的資金は、路面補修等設備投資、災害分（コロナ含む）を除く運行に関する補助	—	21円／人 〈R2年度〉 (R1年度実績)	21円／人以下 〈R7年度〉 (R6年度実績)	効果的な公的資金投入の観点から、現状値の以下を目指す